

平成 28 年度（2016 年度）

京都市立芸術大学 音楽学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

目 次

第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	8
弦楽専攻	9
管・打楽専攻	12
声楽専攻	15
音楽学専攻	16

第二次試験

音楽通論	17
聴音書取（旋律聴音）	23
聴音書取（和声聴音）	24
新曲視唱	25
コールユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	25
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	26
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	28

作曲専攻

(第1日) 和声法：A ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ，4声体とすること。

B バス課題：与えられたバスに和声をつけ，4声体とすること。

両課題とも記譜は次のa又はbのいずれかを選択すること。

a ソプラノ，アルト，テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。

b ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (a,bによる記譜) は別記のとおり。試験時間各2時間30分

作品提出：自作品を1曲以上，試験当日に提出すること。(コピー譜を提出のこと。提出された作品は返却しない。)

(第2日) 二声対位法：与えられた全音符の定旋律に，対旋律をつくる。試験時間3時間

対旋律は，2分音符，4分音符，8分音符と移勢(シンコペーション)を含む，いわゆる自由(華麗)対旋律によるものとする。

解答は，次の1～6の6通りが必要である。

1：定旋律をバスに置き，対旋律をソプラノに作る。

2：定旋律をバスに置き，対旋律をアルトに作る。

3：定旋律をバスに置き，対旋律をテノールに作る。

4：定旋律をソプラノに置き，対旋律をアルトに作る。

5：定旋律をソプラノに置き，対旋律をテノールに作る。

6：定旋律をソプラノに置き，対旋律をバスに作る。

なお，定旋律は，ソプラノとバスにおいて，適宜移調してもよい。

記譜はa又はbのいずれかを選択すること。

a：ソプラノ，アルト，テノール，バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例 (aによる記譜) は別記のとおり。

(第3日) 作曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間4時間30分

(第4日) 面接を行う。

◎作曲専攻(第1日)和声法の実施例

*課題 {過去の出題(ソプラノ課題)より冒頭2小節}



*記譜bによる実施例

Musical score for piano part, Andante (♩=72ca.), mp, mf. The score is written on a grand staff with treble and bass clefs and a key signature of one sharp (F#). It features a melody in the right hand and a supporting bass line in the left hand. Dynamics range from mezzo-piano (mp) to mezzo-forte (mf). The piece ends with a wavy line indicating continuation.

*記譜 a による実施例

Andante (♩=72 ca.)

The score consists of four staves. The top staff has a melody starting with a half rest, followed by quarter notes D4, E4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, E4, D4. Dynamics include *mp* and *mf*. The second and third staves have a similar melodic line with *mp* dynamics. The bottom staff has a bass line with a half rest, followed by quarter notes D3, E3, F#3, G3, A3, B3, C4, B3, A3, G3, F#3, E3, D3. A wavy line is present to the right of the staves.

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

*記譜 a による実施例

定旋律

The score shows a fixed melody (定旋律) in the bass clef: D4, E4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, E4, D4. Below it are six numbered examples (1-6) of two-voice counterpoint. Each example shows a different melodic line in the treble clef paired with the fixed melody in the bass clef. The key signature is D major (one sharp).

平成28年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

■ 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。

a : ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b : ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 2時間30分)

Adagio cantabile (♩ = 60 ca.)

平成28年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

■ 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. またはb. のいずれかを選択する。

a : ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b : ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 2時間30分)

Moderato (♩ = 102 ca.)

Handwritten musical score for a bass exercise. It consists of three staves. The first staff is in bass clef with a key signature of one flat and a 9/8 time signature. It contains a melody starting with a half note G2, followed by quarter notes A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3, and a final quarter note G3. The second staff is also in bass clef with one flat and 9/8 time, containing a bass line with quarter notes G2, F2, E2, D2, C2, B1, A1, and G1. The third staff is in bass clef with one flat and 9/8 time, containing a bass line with quarter notes G2, F2, E2, D2, C2, B1, A1, and G1. Dynamics include mp, mf, and f. There are also some handwritten markings like '<' and '>' under the second staff.

平成28年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二日：対位法

- 次の全音符の定旋律に、対旋律を1つ作り、二声体としなさい。
対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1－6の6通りが必要である。

- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

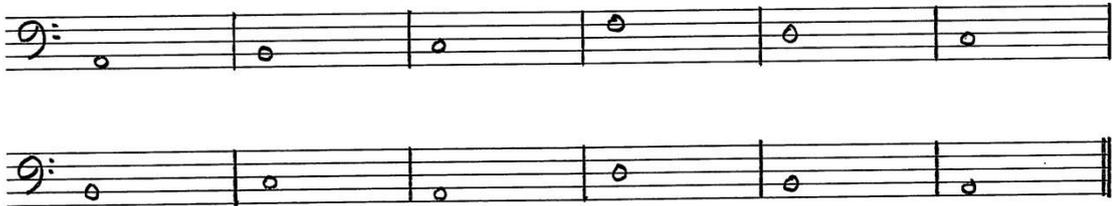
なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。

記譜は、a. またはb. のいずれかを選択すること。

a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)



指揮専攻

- (第1日) 1 下記の楽曲を指揮すること。全楽章の中から当日、演奏部分を指定する。(演奏はピアノによるものとする。)
- (ア) L. v. Beethoven : 交響曲 第3番 変ホ長調 「英雄」 作品55
 (イ) W. A. Mozart : 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 ト長調 K.525
 いずれも全楽章。楽譜の出版社は自由とする。
- 2 当日提示する楽曲による総譜視奏(スコアリーディング)
 (ア) W. A. Mozart : 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」 ト長調 K.525の第2楽章の総譜(スコア)を見てピアノで演奏すること。
 (イ) 初見視奏(ソプラノ記号, アルト記号, テノール記号を含む場合がある。)
- 3 既に習得しているピアノ以外の楽器(弦楽器, 管打楽器, ハープのうちいずれか1つ)若しくは声楽を演奏すること。その場合, 楽器は各自持参すること。ただし, コントラバスについては, 楽器を持参できない場合は, 本学で用意するので, 楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリンバについては, 本学で用意する楽器を使用すること。なお, すべて無伴奏とし, 演奏曲目を願書に明記すること。
- 4 和声法: 与えられたソプラノとバスの旋律に和声をつけ, 4声体とすること。
 (記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間
- (第2日) 面接を行う。

平成28年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻・和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。
 記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3時間)

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 F. Chopin：練習曲作品 10 及び作品 25 から任意の 2 曲を選択し、第 1 日目に、本人による抽選で、演奏する 1 曲を決定する。

3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナター曲全楽章を選択し、第 1 日目に本人による抽選で、演奏する (1 つの、あるいは複数の) 楽章を決定する。

※注意 (1) いずれも暗譜演奏すること。

(2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。

(3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。

(4) 1 については 7 分以上 12 分程度までとする。

(5) 1 については、変奏曲の抜粋は認めない。

(6) 2 について、以下の曲は除く。

作品 10 から 3, 6, 9 作品 25 から 1, 2, 7

(7) 2 について、作品番号にかかわらず 2 曲を選択することも可。

(例：10-1 10-2 あるいは 25-4 25-5 あるいは 10-1 25-4)

(8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意 (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。
 (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。
 (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただしLaloのスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツァはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツァはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第1番 嬰へ短調 作品14

(第1楽章はカデンツァの前まで演奏すること。)

H. Wieniawsky: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No.6 ~ No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符 = 80以上, No.6 ~ 10 は8分音符 = 60以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1(ただし、4小節以下の繰り返しはすること。)

* ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz:協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章(版は自由とする。カデンツァを除く。)

J. Christian Bach:協奏曲 ハ短調 第2楽章及び第3楽章 (SALABERT 版を使用すること。カデンツァを含む。)

A. Hoffmeister:協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章(IMC 版を使用すること。カデンツァを除く。)

C. M. v. Weber : Andante e Hungarian Rondo (IMC 版を使用すること。)

M. Reger : Suite 作品 131d No.1 第1楽章及び終楽章

G. Enesco : Concert piece

(第2日) 1 C. Flesch : Scale System より No.5, 6, 7, 8

ただし No.6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli : 41 Caprices 作品 22 より 任意の1曲を選択し、演奏すること。(版は自由とする。)

* チェロ

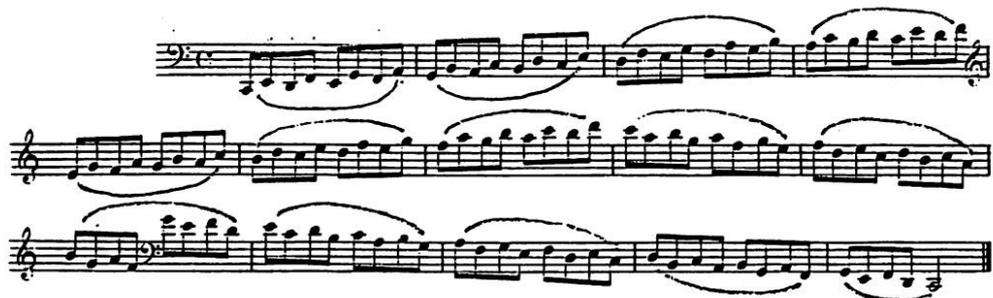
(第1日) J. Haydn : 協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb.1 より第1楽章を演奏すること。(カデンツァは除く)

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot 版) を参照のうえ、ハ長調による下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階 (スラーは1弓8音) = 100以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階 (スラーは1弓8音) = 100以上)

譜例



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ (スラーは1弓6音) = 60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階 (スラーは自由) = 80以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階 (スラーは自由) = 80以上)

(f) 1オクターヴにわたる重音8度の音階 (スラーは自由) = 80以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J. Duport : Etudes より 第11番 イ短調 を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

第一次試験

*コントラバス

(第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。

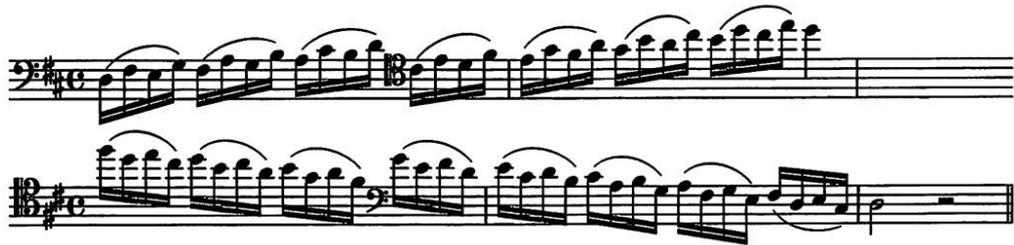
(第2日) 1 下記 (a) ~ (d) までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由)

2 J. Hrabě : 86 Etudes 第1巻より第7番 Andantino を演奏すること。

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)
 (2) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
 (3) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) E. Köhler : 12 Medium Difficult Exercises 作品33 第Ⅱ巻の中から当日指定する曲(版の指定なし。)
 (第2日) W. A. Mozart:協奏曲 第1番 ト長調 K. 313 (K6. 285C) 第1楽章(カデンツァを除く。)

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot 版) より第1番, 第3番, 第5番, 第10番, 第12番, 第13番, 第16番, 第18番, 第22番, 第27番の中から当日指定する曲
 (第2日) J. Haydn : 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg : C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf 版)

*クラリネット

- (第1日) 1 R. Eichler : Scales for Clarinet の各調1番をレガート, スタッカートで演奏すること。
 (当日指定する調を暗譜で演奏すること。)
 2 C. Rose : 32 Etudes より第6番, 第9番, 第14番, 第15番, 第17番, 第20番, 第23番, 第26番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲。
 (第2日) Carl Maria von Weber : Concertino Es-Dur 作品26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn : Fagott Studien 作品8第2巻より第1番から第15番までの中から当日指定する曲(繰り返しなし, 版の指定なし)
 (第2日) G. P. Telemann : Sonata f-moll 第1楽章, 第2楽章(版の指定なし。)

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc 版) より第1番, 第5番, 第8番, 第9番, 第12番, 第17番, 第18番, 第25番, 第26番, 第30番の中から当日指定する曲
 (第2日) A. Grazounov : Concerto en mi bémol (Alphonse Leduc 版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies (C. Fischer 版, 繰り返しなし) より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲
 (第2日) W. A. Mozart : 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV. 495 全楽章より当日指定(ただし第3楽章は第99小節目まで, カデンツァなし)

*トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第19番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より5番～14番の中から当日指定する曲
なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階を最初はテヌートで、リピート後はスタッカートで演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

※楽譜の入手が困難な場合は、連携推進課入試担当にお問い合わせ下さい。

*トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第10番, 第13番, 第15番, 第17番, 第19番, 第21番, 第22番, 第25番, 第31番, 第40番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
- (第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第13番, 第17番, 第22番, 第25番, の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。オクターブで両方書かれている箇所は低い音域を演奏する)
Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版) より
第6番, 第10番, 第16番, 第26番の中から当日指定する曲
- (第2日) F. David : Konzertino 変ロ長調第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

*チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番, 第7番, 第8番, 第9番, 第10番, 第11番, 第12番, 第13番, 第14番, 第15番の中から当日指定する曲
2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番～第10番の中から当日指定する曲
- (第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tube (Elkan-Vogel 版) より第1楽章, 第2楽章, 第4楽章

***打楽器**

打楽器 (A), 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) Morris Goldenberg : Modern school for snare drum より 47 ページ < Roll exercise in 4/4 II >, 48 ~ 49 ページ < Etude in 6/8 > の中から当日指定する曲
- (イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第 25 番, 第 28 番, 第 29 番, 第 30 番の中から当日指定する曲
- (ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリimbaで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
- J. S. Bach : ソナタ 第 1 番 ト短調 BWV1001
- J. S. Bach : パルティータ 第 1 番 ロ短調 BWV1002
- J. S. Bach : ソナタ 第 2 番 イ短調 BWV1003
- J. S. Bach : パルティータ 第 2 番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
- J. S. Bach : ソナタ 第 3 番 ハ長調 BWV1005
- J. S. Bach : パルティータ 第 3 番 ホ長調 BWV1006
- (第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) Morris Goldenberg : Modern school for snare drum より 47 ページ < Roll exercise in 4/4 II >, 48 ~ 49 ページ < Etude in 6/8 > の中から当日指定する曲
- (イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag) より, 第 25 番, 第 28 番, 第 29 番, 第 30 番の中から当日指定する曲
- (ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
- (エ) J. S. Bach : パルティータ 第 3 番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリimbaで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)
- (第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

声乐専攻

- (第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。
- (第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。
- | | | |
|------|-----------------|----------------------------|
| (1) | G. B. Bassai | Dormi, bella |
| (2) | G. Caccini | Amor, ch'attendi? |
| (3) | F. Durante | Danza, fanciulla gentile |
| (4) | G. B. Pergolesi | Nina |
| (5) | S. Rosa | Star vicino |
| (6) | G. Sarti | Lungi dal caro bene |
| (7) | A. Scarlatti | O cessate di piagarmi |
| (8) | V. Bellini | Almen se non poss'io |
| (9) | S. Donaudy | Quelle labbra non son rose |
| (10) | S. Donaudy | Sento nel core |
| (11) | J. Brahms | Sonntag |
| (12) | F. Schubert | Lachen und Weinen |
| (13) | G. Fauré | Ici-bas! |
| (14) | 信時 潔 | 行々子（沙羅）より |
| (15) | 畑中 良輔 | 秋の空（八木重吉による五つの歌）より |

- ※注意
- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
 - (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
 - (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
 - (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
 - (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
 - (6) 伴奏者は、両日共本学において準備するので、同伴しないこと。

※「英語」の試験問題については、著作権法上の規定により掲載しておりません。

平成28年度（2016年度）

京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題

音楽学 小論文

ヒトがなぜ「音楽」という行動をするかということについて、学者Aと学者Bが論争をした。学者Aは進化論的な観点から、ヒトが「音楽」をするのは鳥の求愛歌などと同様に、知的能力や身体制御の巧みさを異性に対して示し、それを魅力的と感じることで知的能力や身体制御において優秀な子孫を残すという自然淘汰の結果であると説いた。学者Bは、ヒトにとって音楽は、いわば食後のデザートのようなもので、その存在自体は生命の維持活動にとって必須不可欠ではないものの、それがあることは純粹にヒトにとって「快」の感覚をもたらすものであると説いた。

いずれかの立場に立って、相手の説の論理的な問題点を批判し、自らの立場の合理性を論理的に主張しなさい。

平成 28 年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

音楽通論 問題用紙

I. 譜例 1 を見て、以下の問いに答えなさい。(計 43 点)

- (1) ①～⑩の楽語の意味を書きなさい。(2 点×10)
- (2) ㊸～㊺の和音と同じ種類の和音の基本形を、調号を用いなくて解答用紙に示された音を最高音として全音符で書き入れなさい。(2 点×7)
- (3) 3 段目の 3 小節間を長三度上に移調して、調号を用いずに書きなさい。(9 点)

II. 譜例 2 を見て、以下の問いに答えなさい。(計 57 点)

- (1) ①～④で示された部分の調をドイツ語で書きなさい。(3 点×4)
- (2) ㊸～㊺で示された部分の和音を要約して、その和音の基本形を調号を用いなくて、低音部譜表に全音符で書きなさい。(2 点×4)
- (3) ㊸の和音を下属和音とする調を、(1)の解答の中から選んで①～④の記号で答えなさい。(3 点)
- (4) ㊸の和音は、(1)の①～④のそれぞれの調において何度の和音になるか、例にならって答えなさい。(例：I、II、III、IV、V、VI) (3 点×4)
- (5) ㊹の和音を主和音とする調の平行調の和声的短音階を、調号を用いなくてアルト譜表に全音符で書きなさい。(3 点)
- (6) ㊺の和音を属和音とする短調の属調の異名同音調の旋律的短音階上行形・下行形を、調号を用いなくてテノール譜表に全音符で書きなさい。(3 点)
- (7) ㊸～㊺の音程の転回音程を、例にならって書きなさい。(例：長 3 度) (2 点×8)

譜例 1

① Allegro di marcia (♩=118)

② *sostenuto*

③ *pp misterioso*

④ *rubato, drammatico*

⑤ *molto stringendo*

⑥ *velocissimo*

⑦ Allegretto (♩=ca. 90)

⑧

⑨ *simile*

⑩ *sempre arpeggiato*

ff, *sffz*, *mf*, *pp*, *ff*, *ff*, *mp*, *cresc.*, *ff*

譜例 2

System 1 of the musical score. It consists of five staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps (F#, C#, G#) and a common time signature. It contains a melodic line with various ornaments and a circled note with a '7' above it. The second staff is a treble clef with a piano dynamic marking 'p'. The third staff is an alto clef with a piano dynamic marking 'p'. The fourth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. The fifth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. A bracket labeled '1' spans the first two staves, and another bracket labeled '2' spans the last two staves.

System 2 of the musical score. It consists of five staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps and a common time signature. It contains a melodic line with various ornaments and a circled note with a '7' above it. The second staff is a treble clef with a piano dynamic marking 'p'. The third staff is an alto clef with a piano dynamic marking 'p'. The fourth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. The fifth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. A bracket labeled '2' spans the first two staves, and another bracket labeled '3' spans the last two staves.

System 3 of the musical score. It consists of five staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps and a common time signature. It contains a melodic line with various ornaments and a circled note with a '7' above it. The second staff is a treble clef with a piano dynamic marking 'p'. The third staff is an alto clef with a piano dynamic marking 'p'. The fourth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. The fifth staff is a bass clef with a piano dynamic marking 'p'. A bracket labeled '3' spans the first two staves, and another bracket labeled '4' spans the last two staves.

第二次試験

First system of musical notation. It consists of four staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps (F#, C#, G#) and a time signature of 7/8. It contains a melodic line with slurs and accents. The second staff is a treble clef with a similar melodic line. The third staff is an alto clef with a similar melodic line. The bottom staff is a bass clef with a similar melodic line. There are circled numbers 1, 2, 3, and 4 below the staves, indicating specific notes or measures.

Second system of musical notation. It consists of four staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps and a time signature of 7/8. It contains a melodic line with slurs and accents. The second staff is a treble clef with a similar melodic line. The third staff is an alto clef with a similar melodic line. The bottom staff is a bass clef with a similar melodic line. There are circled numbers 4, 5, 6, and 7 below the staves, indicating specific notes or measures. A trill (tr) is marked in the second staff.

Third system of musical notation. It consists of four staves. The top staff is a treble clef with a key signature of three sharps and a time signature of 7/8. It contains a melodic line with slurs and accents. The second staff is a treble clef with a similar melodic line. The third staff is an alto clef with a similar melodic line. The bottom staff is a bass clef with a similar melodic line. There are circled numbers 8, 9, 10, and 11 below the staves, indicating specific notes or measures.

平成 28 年度
京都市立芸術大学音楽学部入学試験

音楽通論 解答用紙

受験番号	
------	--

I. (1) ①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

(2) ①

②

⑤

⑥

⑦

平成28年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

旋律聴音

♩ = 60

4

3

3

7

3

3

9

平成28年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[作曲、指揮、ピアノ]

$\text{♩} = 40$

Measures 1-4 of a piano score in B-flat major, 4/4 time. The tempo is marked as quarter note = 40. The score consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The music is written in a simple harmonic style with chords and single notes.

5

Measures 5-8 of the piano score. The score continues with chords and single notes in the same key and time signature.

平成28年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

和声聴音[弦楽、管・打、声楽、音楽学]

$\text{♩} = 40$

Measures 1-4 of a piano score in B-flat major, 4/4 time. The tempo is marked as quarter note = 40. The score consists of two staves: a treble clef staff and a bass clef staff. The music is written in a simple harmonic style with chords and single notes.

5

Measures 5-8 of the piano score. The score continues with chords and single notes in the same key and time signature.

平成28年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

新曲視唱

♩ = 120 Allegretto

The musical score consists of three staves of music in G major, 6/8 time. The first staff begins with a mezzo-forte (mp) dynamic and the instruction 'molto legato e espress.'. It features a melodic line with eighth and sixteenth notes. The second staff starts at measure 3 with a mezzo-forte (mf) dynamic, includes a triplet of eighth notes and a fourth-measure rest, and ends with a crescendo (cresc.) marking. The third staff starts at measure 6 with a forte (f) dynamic and concludes with a 'poco rit.' (poco ritardando) marking.

mp molto legato e espress.

mf cresc.

f poco rit.

平成 28 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験

コールユーブンゲン視唱

The musical score consists of two staves of music in G major, 3/8 time. Both staves feature a rhythmic pattern of eighth notes with slurs and accents, characteristic of the 'Call You Bungen' exercise.

平成 28 年度 京都市立芸術大学音楽学部入学試験
新曲試奏

Moderato

5

8

11

15

18

20

23

27

Breathe

sfz

molto

f

Calm

各専攻副科ピアノ課題曲

副科ピアノの課題曲については、次のとおりとします。

- 1 音階：次の調性の中から同一調子記号による長調と短調を当日指定する。
速度は $J = 76$ M. M. 以上。
ハ長調 ト長調 ニ長調 イ長調 ヘ長調 変ロ長調 変ホ長調
イ短調 ホ短調 ロ短調 嬰ヘ短調 ニ短調 ト短調 ハ短調
(注) ハノン第 39 番による。長調の音階は繰り返し演奏し、終止形をつけて終わる。短調は、和声的及び旋律的短音階の両方を一度ずつ続けて演奏し、終止形をつけて終わる。
- 2 (A) J. S. Bach：平均律ピアノ曲集 第 2 巻より 前奏曲とフーガ 第 19 番 イ長調 BWV888
(B) J. S. Bach：2 声のインヴェンション BWV772～786 より 1 曲又はシンフォニア (3 声のインヴェンション) BWV787～801 より 1 曲を自由選択
ただし、インヴェンション第 10 番ト長調、シンフォニア第 5 番変ホ長調、シンフォニア第 6 番ホ長調を除く。
(C) J. S. Bach：小プレリュード (小前奏曲) 第 3 番ヘ長調 BWV927 (ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハのための小曲集より)

(注) ※作曲及び指揮専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※弦楽、管・打楽、声楽及び音楽学専攻志願者は、上記 1 は必ず、2 は (A) (B) (C) の中から 1 つを選択し、演奏すること。

※全て暗譜で演奏すること。(繰り返しはしない。)

2016年4月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>